

I.P.U

通信

茨城県立医療大学
広報紙

vol.005
2018/02

茨城県立医療大学
IBARAKI PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

特別対談 茨城県立医療大学の今と未来

永田 博司学長 × 水上 昌文副学長

第11期卒業生

第6期卒業生

× 宮田 一弘助教 × 中島 絵梨華助教

茨城県立医療大学卒業生インタビュー

第1期卒業生 橘 香織准教授 / 第12期卒業生 鈴木 愛さん

茨城県立医療大学附属病院長インタビュー 岩崎 信明病院長

■茨城県立医療大学トピックス ■同窓会からのお知らせ ■SD・FD活動の取り組み

■茨城県立医療大学は茨城大学COCプラスの参加校です

特別対談

Special Talks

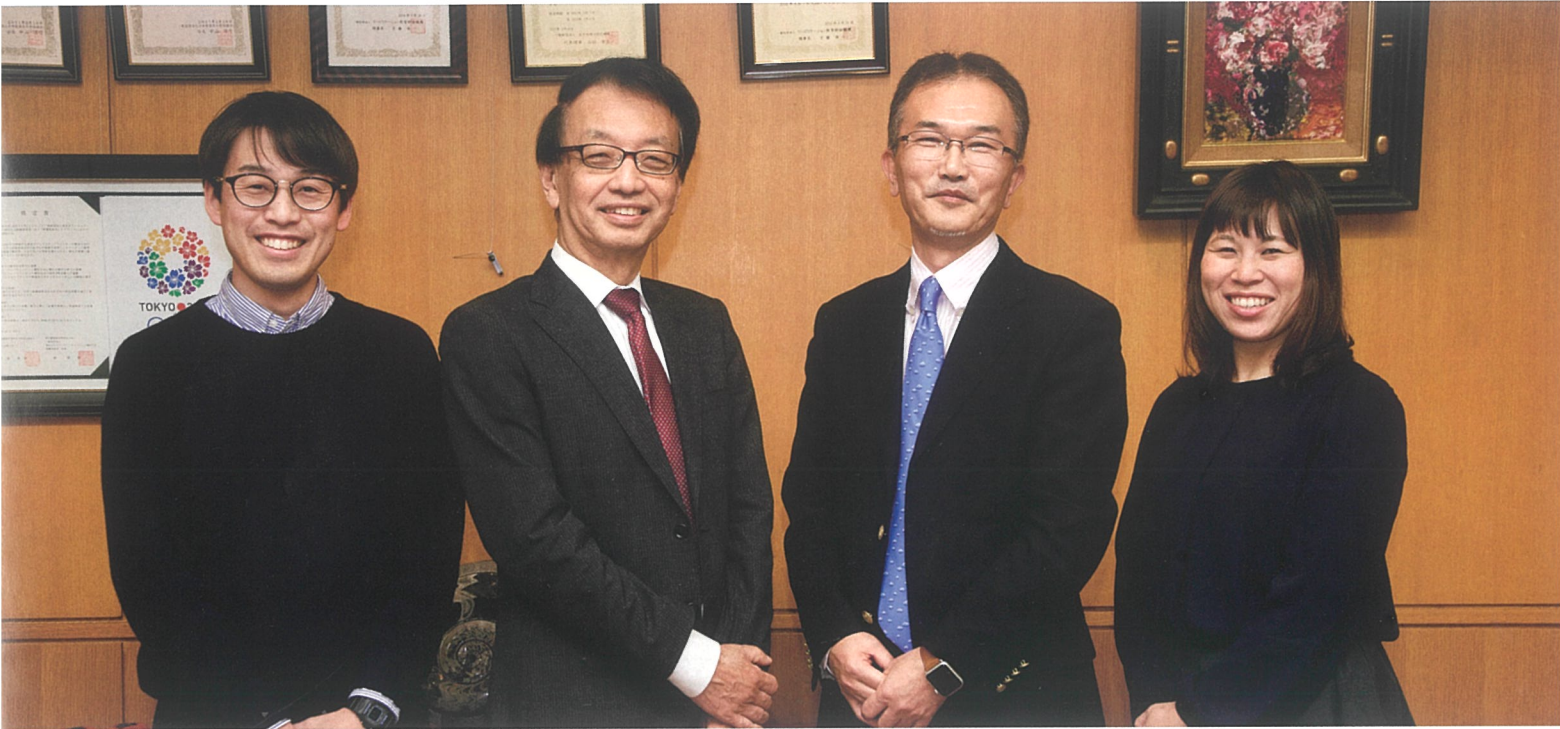
茨城県立医療大学の今と未来

永田 博司 学長
NAGATA Hiroshi

水上 昌文 副学長
MIZUKAMI Masahumi

第11期卒業生・理学療法学科助教
宮田 一弘
MIYATA Kazuhito

第6期卒業生・放射線技術科学科助教
中島 絵梨華
NAKAJIMA Erika



水上 お二人は茨城県立医療大学の卒業ですが、卒業後にどのような道をたどって本学の教員になったのかを教えてください。

中島 私は、まず埼玉の総合病院に就職し3年勤務し、個人病院へ転職。その後平成26年に茨城県立医療大学の嘱託助手として着任し、3年間勤務した後にお声がけ頂き、茨城県立医療大学の教員となりました。

宮田 私は卒業後高崎市にある総合病院に入職、リハビリ専門の回復期病院で3年間勤務後、本院（急性期病院）で5年間勤務しました。働き始めて4年目に群馬大学の大学院に入学し、臨床を行いながら研究しているところに声をかけて頂き、茨城県立医療大学の教員となりました。

水上 宮田さんは、学会でよく会い、いつも研究成果を発表していて頑張っているなど感じていましたよ。

永田 二人とも今、大学院に在籍していますが、いったん臨床の現場に入ってから大学院に行こうと思ったモチベーションは？

宮田 私は、学部生の頃から、もと



永田 博司
1950年生まれ。京都府出身。平成7年4月茨城県立医療大学に着任。平成28年8月第6代学長に就任。

もと研究に興味を持っていました。

理学療法士として一度臨床の現場で働きたいと思い就職しました。就職先の病院には、働きながら大学院に入り研究をしている先輩が複数いて前例もあり、職場の理解も得られたことから、臨床を行いながら大学院で研究するという道を選びました。

中島 私は、2011年の東日本大震災の福島第一原子力発電所の事故ときに、放射線に関するいろいろなニュースが流れ、病院の中でも話題になりました。そのときに放射線の専門職種であるにも関わらず、患者さんや他の医療従事者の方からの放射能汚染に対する疑問に答えをだすことができませんでした。まだまだわからないことはたくさんあると感じ、それをきっかけに研究したいと思うようになり、大学院には入りました。

水上 ふたりともこの4月に茨城県立医療大学の教員に着任しましたが、教員になろうと思ったきっかけは？

宮田 私は、研究という疑問を順序たてて解決していくことが楽しいと

感じ、学部生の頃から教員という職業を意識はしていました。また、学生と接することでいろいろな刺激を受け続けることができることも理由にあります。

中島 私も、学生とのかかわりをもつのは刺激があります。嘱託助手として教育に関わり非常に楽しく、教員の仕事に魅力を感じました。また、臨床に戻るといことは考えられなかったです。

水上 学生の立場と教員の立場を経験しているお二人から、学生として見ていたところ、今教員としてみる茨城県立医療大学の違いは感じられますか？

中島 学生の頃は、教員がこんなに忙しいと思っていませんでした。先日も学生に「先生は授業がないときは暇なんだよね」と言われたのですが、いざ教員になってみると本当に忙しく、他の先生方も寝る暇がないほど授業の準備や研究をしていて衝撃を受けました。

また、大学の教育カリキュラムの改定が進み、どんどん教育の質がよ



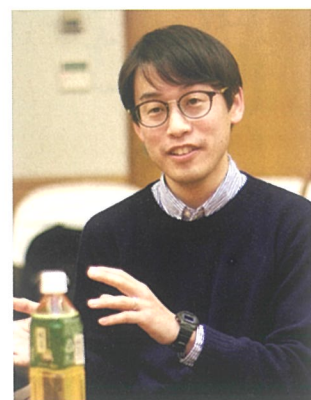
水上 昌文

1961年生まれ。山梨県出身。平成9年4月茨城県立医療大学に着任。平成29年4月から副学長に就任。

水上 新年度は、大学設立24年目に

地域における実習内容は他大学の教員に伝えるとその充実した内容に驚かされることもありました。

くなっていると感じています。とくにOSCEはすばらしいと思います。ただ、昔はOSCEなどがなかったので、実習に行く前には、自己学習を行っていました。今の学生は与えられている物が多く、能動的に行うのではなく義務的になっている部分があるのかなと思います。
宮田 多職種連携の授業がすごく充実したと感じます。私が学生の頃は1年次と4年次に少しあるだけでしたが、今は全学年継続して行っています。今授業を受けている学生にはその良さがわからないかもしれませんが、臨床から戻ってきてみるととても重要な授業だと感じています。
また、大学院は私が在籍していたころは修士課程のみでしたが、今は博士課程もでき、教員や学生が刺激を受け、大学の研究活動として発展していると感じました。
そして、学生の頃はわかりませんでした。が、茨城県立医療大学の教育環境は恵まれていたことを卒業後に気付きました。茨城県立医療大学の付属病院の臨床教育体制が整っていることや、大学の



宮田 一弘 (第11期卒業生)
1986年生まれ。群馬県出身。

入り、茨城県立医療大学でも第二期アクションプランが動きはじめています。これからの大学をどのようにしていけばより良くなると思いますか。

永田 茨城県立医療大学が設立された理由は、県内に不足している医療専門職の人数を増やしていく目的であり、付属病院は教育や良質のリハビリテーションを提供することでした。私たちが行ってきた基本的なことにプラスして、大学をより良くするため、どのようにしていったらよいかと考えるのがアクションプランです。

地域にどのように貢献していくか、地域密着度をどのように高めていくか、研究をどうやって伸ばしていくか、卒業生の皆さんに対して、さらに県内の現場で働いている医療専門職の方に対しても、大学で何ができるかともっと積極的に働きかけていかなければなりません。

中島 私はもっと学生が地域の中に出て行き、コミュニケーションを積極的にとっていくことが大事である

と思います。阿見町のマラソン大会に救護班として茨城県立医療大学の学生が毎年参加しています。が、IPUのほりが出ていると地域の方々の話題にものぼります。その他にも、阿見町で行っている行事もたくさんありますので、是非学生に参加してもらいたいです。茨城県立医療大学の学生は勤勉でまじめな学生が多く、コミュニケーションをとることで、学生の良さが地域の方々に伝わるはず

です。私も阿見町民としてできることがあれば関わっていきたくと思っています。こういった地域の方々の口コミが阿見町から県南地域、県全体、全国に広まっていくと思います。

水上 情報発信力が重要です。中島 茨城県立医療大学は実際にいろいろなことをしているのに、地域の方や臨床の現場の方に届いておらず、情報発信が少ないと感じています。

永田 茨城県立医療大学でも広報に力を入れようと、1年前からWG(ワーキンググループ)をたちあげ取り組んでいるところ。水上 最後になりますが、教員となつてこの1年は、慣れるのに一生懸命だったと思います。2年目に向けての抱負を教えてください。



中島 絵梨華 (第6期卒業生)
1981年生まれ。茨城県阿見町出身。

さい。

宮田 1年目はサポートの役割が多かったですが、来年度から担当科目を持たせてもらい、学生に話をする機会が増えてくるので、念入りに準備をして授業に臨みたいです。また、学生から研究の話を聞きたいと相談を受けていますので、私も指導教員であつた水上先生から教えていただいたように研究のおもしろさを学生に伝えていきたいです。

中島 与えられた仕事をこなすことで精いっぱい1年でした。次年度はもっと学生とのコミュニケーションを積極的にとっていきたいと思っています。また自分の研究にも積極的に邁進していきたくと思っています。

永田、水上 本日はありがとうございました。お二人の今後の活躍を期待しています。

※OSCE
客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination)



同窓会長
第1期卒業生
理学療法学科准教授

橘 香織

TACHIBANA Kaori

——学生として在籍していた頃と比較して今の茨城県立医療大学は？

よく茨城県立医療大学のオープンキャンパスに来た高校生に、「学生と教員の距離が近い」と言われますが、その雰囲気は当時から変わっていません。先生方が私たち学生のことをとても考えてくださっているというところは在籍中から感じていましたが、卒業してからもずっと気にかけて見守り続けてくださっているのだということ、教員として戻ってきて温かい大学なのではないかな、と思います。

特に理学療法学科は、私達一期生の担任の先生だった大橋ゆかり教授をはじめ、多くの先生方が現在も茨城県立医療大学で教鞭をとっております。

——茨城県立医療大学を卒業後は、どのような道に進んだのですか？

卒業後は、理学療法士として横浜市に就職し、脳血管医療センターという新設の病院に配属されました。

そこでの経験がきっかけで、高次脳機能障害についてより詳しく勉強したいと思い、東北大学大学院医学系研究科博士課程に進学しました。

博士後期課程で学んでいるときに、茨城県立医療大学の教員にならないかとお声がけいただき、自分の学んだ思い入れのある茨城県立医療大学の助教として入職しました。就職した最初の年は、大学の教員として働きながら、主に週末に東北大学大学院のある仙台市まで車で通うという生活でした。

茨城県立医療大学の教員となって今年11年目となります。

PROFILE / Reason for Choice

1972年生まれ。兵庫県出身。
高校卒業後、筑波大学第二学群人間学類心身障害学主専攻（現人間学群障害科学類）に進学。大学3年次の教育実習先の特別支援学校で、生まれつき身体に障害があり、一度も自分の足で歩いたことがない小学3年生の女の子に出会う。その女の子が、つかまり立ちをして初めて歩く「奇跡の一瞬」に立ち会ったことで、歩くということがこんなにも人を感動させるのか、ということを知り、理学療法士を志望する気持ちが強くなった。筑波大学を卒業するタイミングで茨城県立医療大学が開学することを知り、茨城県立医療大学に入学。

車いすバスケの普及活動、 競技力向上に取り組む

——今一番力を注いでいることを教えてください。

障がい者スポーツの中でも椅子または車いすに座ってできるスポーツの普及振興に関わる活動に取り組んでいます。また、障がい者の方がスポーツ参加することが心身の機能に与える影響や、ケガを予防し競技力を向上させるために必要なトレーニング方法の開発に関する研究などを行っています。

本学には、障がい者スポーツ研究会があり、多くの学生が参加して、車いすバスケの練習や試合を行っています。学生には常々、「車いすバスケがうまいだけの健常者が終わったら価値は無い。自分が車いすバスケをやって楽しいと思うのであれば、卒業後、看護師・理学療法士・作業療法士・放射線技師になったときにそこで出会った患者さんに車いすバスケの楽しさを是非伝えられる人になって欲しい。皆さん一人ひとりが、障がい者の方にとつてのスポーツへの入口になることができるのだから。」と伝えていきます。車いすバスケは漫画やドラマなどで取り上げられるようになって認知度はあがりましたが、実際に行くことができる場所は限られています。車いすバスケを

やってみたいと思っても、今の環境では地域のクラブチームに所属するしかありません。でも、初心者にはクラブチームの練習はとてハードルが高いのです。

茨城県立医療大学では、毎週土曜日に車いすバスケ教室を開講し、初心者でも一から始められるスポーツ活動の場を提供しています。初心者から上級者まで、県外からも参加してくださる方がいます。車いすバスケを始めた方を丁寧に育成・サポートしていく環境を作ることが、車いすバスケの競技の発展に繋がっていくはずだと考えています。

——卒業生・同窓会長・教員である橘香織准教授ですが、茨城県立医療大学への思いは？

開学から丸23年となり、県内外で多くの卒業生が活躍されている様子を拝見して、とても心強く感じています。

最近思うことは、大学の評価というのは、決して受験生の偏差値だけで決まるものではなく、卒業した後にそれぞれがどういう仕事をし、どういう生き方をしているか、によるのではないかと、ということ。そういう意味では、在学生の教育はもちろんのこと、卒業生の方にも

活用していただける大学作りが必要ですし、卒業生支援の一環として同窓会を活用していかなければ、と思っています。

そういう私は、仕事でも生き方でも悩んだり迷ったりすることが多く、まだまだ修行中の日々です。大学院時代の恩師の言葉、「歩々は道場」という言葉を胸に、教員の一人として、人を育てるといふ大きな仕事にチャレンジしながら、自分自身も成長して行きたいです。そして、それが母校である茨城県立医療大学への恩返しかなと思っています。

車いすバスケとの出会い

中学、高校と部活でバスケをしていましたが、筑波大学在籍中にスキーで大転倒し、左膝の靭帯を3本断裂。以来、走ったり長時間立ったりしていることが難しくなり、バスケを続けられなくなりました。

横浜市に就職したときに会った同期がたまたま車いすバスケの選手で、試合を見に行ったのがきっかけです。車いすバスケはとても楽しくあつという間にのめり込み、そのうちコーチとしての勉強も始めました。

現在はパラリンピック強化指定選手の指導にも関わっています。大学の皆様には、車いすバスケットボール日本代表の合宿地として施設をお借りしたり、付属病院の方々にメディカルチェックをお願いしたりと、本当にお世話になっています。また、こうした活動に携わらせていただけるのは、理学療法学科の先生方のご理解とサポートのおかげです。いつも心から感謝しております。





指導教員

水上昌文 教授

MIZUKAMI Masahumi



第12期卒業生
博士前期課程 理学療法学・作業療法学専攻2年次

鈴木 愛さん

SUZUKI Ai

院に入って勉強してみたらと声をかけて頂いたのがきっかけです。

——今修士論文が完成し審査に進んでいるところですが、研究成果は？

私は、高齢者における車いすシーティングについて、バックサポーターに焦点をあてた研究をしました。日本の車いすはほとんど布張りなのですが、硬い基盤のある座面やバックサポーターの方が、座り心地や姿勢がよく、自走しやすいことが報告されています。ですが、「姿勢を変える」「目の前のものを取る」といった動き出しやすさの観点からバックサポーターの有効性を定量的に明らかにした研究は今までなかったもので、ここに着目して研究を実施しました。その結果、動き出しやすさの点においても、硬い基盤を持つバックサポーターの方が有効であることをデータで示すことが出来ました。

——大学院での研究を経て今どのように考えている？

今回研究した硬い基盤のあるバックサポーター自体は既に製品化されていますが、特に福祉現場では一部のPT、OTにしか知られていないのが現状です。バックサポーター自体も高価であり、良いものとかわかっていてもそこまで必要ないと考える人も多いです。また、在宅生活を送っている方は車いすをレンタルできますが、介護保険施設に入居している方はレンタルすること

ができません。レンタルするにしても、全ての方に最適な車いすを選定できていたとも限りません。北欧ではレンタル制度が一般的になっており、車いす選定に関しても専門職の方たちが行えるように窓口が明確になっていきます。高齢者の状態は年々変化していくので、レンタル制度が介護保険施設でも一般的になれば、その時点の状態に適合したものを常に使用することが出来ます。日本の社会福祉の制度が、利用者さんにとってよりよいものを選択できる社会になるにはどうしたらよいかと考えています。

——今後の鈴木さんのキャリアとしてはどうしていきたい？

社会福祉制度に興味が出てきたので、通信制大学などで、社会福祉の基本的なことから学んでみたいと考えています。

——将来的には、行政の分野などで理学療法士の立場から福祉制度の策定に携わることも考えている？

はい。今は具体的にどのような立場から関われるかわかりませんが、興味があります。大学院で学んだことを生かしていきたいと思っています。

——大学院に入ろうと思ったきっかけは？
今の職場に入職して1年ぐらいたったところに、患者さんと接する中で違う福祉用具を使えばもっと生活圏が広がるのと思うことがありました。その中で最も目についたのが、車いすです。そこでシーティングについて勉強してみたいと思い、突然水上先生の研究室を訪ねました。それから1年ほどの間、2週間に1度のペースで研究室を訪れるようになり水上先生からせっかくだから大学

——大学院に入ろうと思ったきっかけは？
今の職場に入職して1年ぐらいたったところに、患者さんと接する中で違う福祉用具を使えばもっと生活圏が広がるのと思うことがありました。その中で最も目についたのが、車いすです。そこでシーティングについて勉強してみたいと思い、突然水上先生の研究室を訪ねました。それから1年ほどの間、2週間に1度のペースで研究室を訪れるようになり水上先生からせっかくだから大学



PROFILE / Reason for Choice

1988年生まれ。群馬県出身。高校生の時運動部に所属しており、競技力向上に興味を持ち理学療法士を志し茨城県立医療大学に入学。

茨城県立医療大学大学院 のおすすめポイント

1 働きながら大学院に通えます

講義は主に平日の18:30~21:40に行うため、日中に仕事を継続しながら通学できます。現在も多くの院生が働きながら大学院で研究に取り組んでいます。

2 少人数の授業・研究体制

少人数制のため、教員と個別に相談しながら研究を進めることができます。

■平成31年度入試日程

●入試説明会

平成30年6月10日(日)

※教員や現役の院生との個別相談もできます。

●大学院入試

平成30年10月7日(日)

■一般教育訓練給付制度

茨城県立医療大学大学院は一般教育訓練給付金制度の対象講座に指定されています。本学の場合、条件を満たせば大学院修了後に10万円(支払った受講料の20%)がハローワークより支給されます。

教育・研究・臨床の3本柱で地域のリハビリテーションを支える

—茨城県立医療大学付属病院はどのような病院か教えてください。

当院は、医療大学に隣接するリハビリテーション専門病院です。病床数は、成人系が2病棟93床、小児系が1病棟27床の計3病棟120床です。大学の付属施設のため、教育・研究機能が充実していることが特長です。また、脊髄損傷、重度障害、難病、小児などの政策的な医療にも貢献しています。茨城県では病床数が少ない回復期リハビリテーション病棟を運用しています。

—付属病院のリハビリテーションにはどのような特徴がありますか？

成人分野では、リハビリテーション科、神経内科、整形外科、内科の各診療科の医師と、リハビリテーション部の療法士が協力して、先進的なリハビリテーション医療の導入につとめています。近年では、難病の患者さんに対するHAL[®] 医療用下肢タイプを併用したりリハビリテーションを、茨城県内では保険適用後最初に導入しました。小児分野では重症心身障害児の在宅管理のサポートや、呼吸器リハビリテーションなど、幅広い分野のリハビリテーションを行っています。

—付属病院の療法士には、医療大学出身者も多いのでしょうか。

理学療法科、作業療法科とも、半数以上が医療大学の出身者です。

—教育・研究機能が充実しているとお話しましたが、付属病院としてどのような役割を担っているのでしょうか？

まずは、医療大学生をはじめとする県内の医療系学生の実習先として、幅広いリハビリテーション医療に触れることのできる充実した実習を提供しています。

—岩崎院長は小児科がご専門と伺っていますが、小児リハビリテーションに関係する当院の取り組みについてもお話をうかがえますか？

小児リハビリテーションにおいては、当院は常に最新のリハビリテーションを取り入れ、さらに地域に普及していく役割を担っていると考えています。

—最後に、このインタビューをお読みの方へメッセージをお願いします。

茨城県の小児リハビリテーションの問題として、施設の不足が挙げられます。

さらに、リハビリテーション従事者への卒業教育の場も提供しています。そのひとつとして、「研修士制度[※]」を設けています。研修士には個別に指導者が付き、指導にあたっていますので、プランクがある方や、特定の分野のリハビリテーションにしか携わったことがない方でも安心して働けます。

—最後に、このインタビューをお読みの方へメッセージをお願いします。

茨城県の小児リハビリテーションの問題として、施設の不足が挙げられます。

—最後に、このインタビューをお読みの方へメッセージをお願いします。

茨城県の小児リハビリテーションの問題として、施設の不足が挙げられます。

—最後に、このインタビューをお読みの方へメッセージをお願いします。

茨城県の小児リハビリテーションの問題として、施設の不足が挙げられます。

—最後に、このインタビューをお読みの方へメッセージをお願いします。

茨城県の小児リハビリテーションの問題として、施設の不足が挙げられます。

—最後に、このインタビューをお読みの方へメッセージをお願いします。

茨城県の小児リハビリテーションの問題として、施設の不足が挙げられます。



PROFILE

1959年生まれ。東京都出身。
筑波大学医学専門学群(現医学群医学類)卒業。
平成16年8月茨城県立医療大学付属病院に着任。
平成23年4月医科学センター教授に就任。平成29年4月から現職。

研修士制度

付属病院で働きながら、多分野に渡るリハビリテーションの知識と高度な臨床技術を習得できる制度です。勤務時間が正職員より短いため、空いた時間を研究や大学院への通学に充てることもできます。

募集については、随時付属病院ホームページに掲載されます。



リハビリテーション部 理学療法科



リハビリテーション部 作業療法科

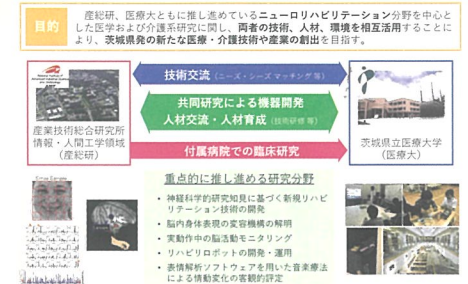
茨城県立医療大学付属病院長
医科学センター教授
岩崎 信明

IWASAKI Nobuaki

国立研究開発法人産業技術総合研究所情報・人間工学領域と連携・協力協定を締結しました

平成29年12月21日、国立研究開発法人産業技術総合研究所情報・人間工学領域と、科学技術・産業技術の向上と教育の発展に向け、相互に連携協力して取り組むための協定を締結しました。協定に基づき、まずは「神経科学的研究知見に基づく新規リハビリテーション（ニューロリハビリテーション）技術の開発」を重点課題と位置づけ、推進していく予定です。今後両者は更なる具体的な協力策等についての協議を進めていきます。

新たなニューロリハビリテーション技術開発を目的とした産業技術総合研究所（情報・人間工学領域）と茨城県立医療大学の連携



左: 永田学長 右: 関口領域長(産総研)

【協定の主な内容】

- リハビリテーション・介護・医学系研究に関する共同研究等の研究協力
- 研究交流及び人材交流
- 教育及び人材の相互支援
- 研究施設、設備の相互利用

高雄医学大学との交流について

平成27年度から本学作業療法学科と続けている台湾・高雄医学大学との国際交流も、今年度で3年目を迎えました。今年度は作業療法学科学生10名のほか、理学療法学科からも2名の学生を受け入れ、約1カ月の滞在期間中、本県の保健福祉政策や現場の状況を学びました。また、山口やちる副知事(当時)を表敬訪問し、「医療大での講義や最先端のリハビリ医療などを習得してください」と激励の言葉をいただきました。9月には本学から教員及び学生総勢12名が高雄医学大学を訪問し、授業見学のほか、附属病院などの施設見学を行いました。また、この機会に協定締結に向けても議論され、これまで相互の学科間同士の協定でしたが、今後は大学間での協定締結を予定しています。



平成29年度茨城県立医療大学に新しく着任・昇任した教員

平成29年度茨城県立医療大学に新しく着任・昇任した教員を紹介します (①着任・昇任日 ②所属 職名 ③専門分野)



藤岡 寛
①4月1日新任
②看護学科 教授
③小児看護学



浅川 育世
①4月1日昇任
②理学療法学科 教授
③生活環境学



山川 百合子
①4月1日昇任
②医科学センター 教授
③精神医学・精神保健・リハビリテーション心理



桜井 直美
①4月1日昇任
②医科学センター 教授
③病原微生物学・公衆衛生学



岩本 浩二
①4月1日昇任
②理学療法学科 准教授
③筋骨格障害理学療法学



四津 有人
①4月1日新任
②医科学センター 准教授
③リハビリテーション医学



角 友起
(理学療法学科第5期卒業生)
①4月1日昇任
②医科学センター 准教授
③神経生理学



岸本 浩
①4月1日新任
②付属病院 講師
③リハビリテーション医学



秋野 恵理
(看護学科第1期卒業生)
①4月1日新任
②看護学科 助教
③基礎看護学



笠井 久美
(看護学科第7期卒業生)
①4月1日新任
②看護学科 助教
③小児看護学



畔野 智哉
(看護学科第12期卒業生)
①1月1日新任
②看護学科 助教
③成人看護学



宮田 一弘
(理学療法学科第11期卒業生)
①5月1日新任
②理学療法学科 助教
③脳血管障害理学療法学



高崎 友香
(作業療法学科第11期卒業生)
①4月1日新任
②作業療法学科 助教
③身体障害作業療法学



中島 絵梨華
(放射線技術科学科第6期卒業生)
①4月1日新任
②放射線技術科学科 助教
③放射線安全管理学



田子谷 佳加
(放射線技術科学科第4期卒業生)
①7月1日新任
②放射線技術科学科 助教
③マンモグラフィ



石井 大典
①10月1日新任
②医科学センター 助教
③神経科学・神経リハビリテーション

平成29年度茨城県立医療大学の定年退職教員

平成29年度茨城県立医療大学に定年退職教員はおりません。

今年度は定年退職する教員がないことから、例年2月～3月に実施している最終講義はありません。

夏休み親子科学教室

～小学生だけでなく保護者にも大人気！大人も楽しい親子科学教室～

茨城県立医療大学では、毎年夏休み親子科学教室を開催しています。科学に楽しみ、科学の楽しさを実験で体験できます。お子様とは是非参加してみませんか。対象は小学校4年生から6年生の親子で同日に2教室開催し、定員はそれぞれ20組40名となります（予定）。定員を超える場合は、抽選とさせていただきます。平成30年度の申し込み方法につきましては、6月上旬頃に茨城県立医療大学のホームページに掲載する予定です。毎年定員を超える多数のお申込み（平成29年度は2講座計131組の応募）を頂いております。

平成29年度は、8月5日（土）に行い、抽選によりそれぞれ20組が参加しました。

① 「食べ物の消化の仕組み～食べ物はどこに行くの？～」

人間科学センター 准教授 相良 順一

食べ物が消化されて栄養として吸収されるしくみを食虫植物を使って観察。また、唾液を使って消化のしくみを科学的に調べました。



② 「見えないものをみる～体の中を探る仕組み～」

放射線技術科学科 教授 中島 光太郎

実際の病院で使われている3Dワークステーションを用いて身の回りにあるものから、実際の人体の3D画像を作製しました。超音波診断装置で食べ物や金魚の写真を撮影しました。病院でX線を使った画像がどのように作られ、使われているのか学修することが出来ました。



けあ・きゅあ体験講座

～福祉・介護関係者の方のみならず、一般の方にもわかりやすい内容となっています～

福祉・介護施設職員、介護をされているご家族など地域の皆さんを対象として、介護をする人、受ける人の「食事」「移動」「介護者の支援」などをテーマに実技を取り入れた体験型の講習会「けあ・きゅあ体験講座」を毎年実施しております。平成30年度の申し込み方法につきましては、7月中旬頃に茨城県立医療大学のホームページに掲載する予定です。

平成29年度は9月から10月の土曜日に4回行い、82名の方に参加頂きました。

① 「介護を通じた家族と認知症の理解」

医科学センター 教授 山川 百合子

介護を通じて家族とは何か、また認知症の方が何を見て何を感じているかについて考えました。

② 「車椅子は『イス』？ それとも『車』？」

理学療法学科 准教授 橘 香織

車椅子を「イス」としてできるだけ安楽に座っていただくための工夫や、動くための「車」として操作性を良くするための工夫について、実技を通して学びました。



③ 「日常生活動作の介助方法と工夫」

作業療法学科 助教 若山 修一

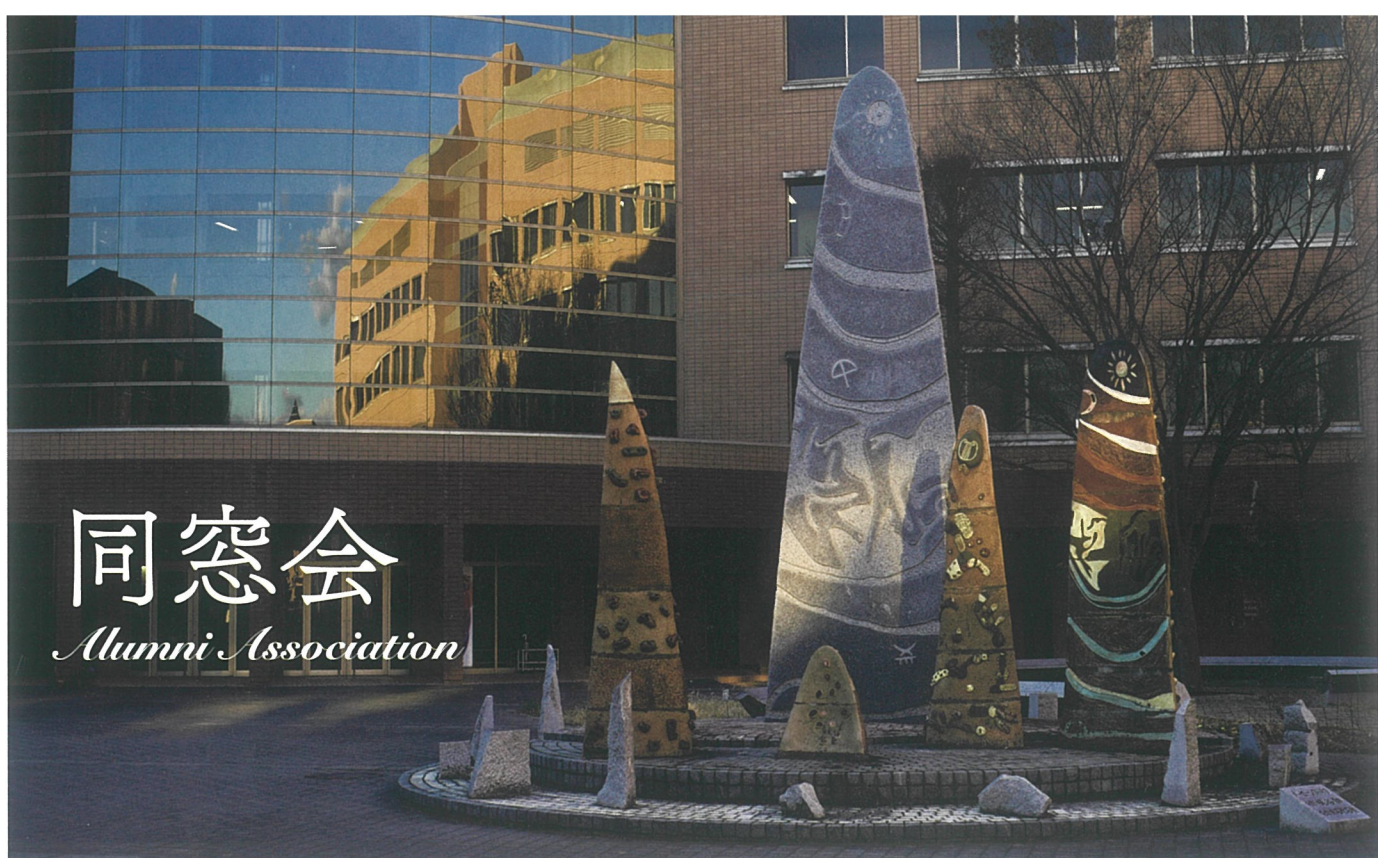
今回は現場での需要の高い「食事」と「排泄」について機能・動き・環境の面から適切な介助を考えました。



④ 「脳卒中を予防しよう！ 予防のための10か条」

附属病院看護師 立原 美智子、野口 美紀子、原田 公美

脳卒中とはどのような病気、どのようにして起こるのか、予防するためには何に気をつけたらよいか、学習しました。



同窓会

Alumni Association

同窓会会報 藝遊 Vol.18

皆様の近況を
お寄せくださいー

毎年、同窓会員からの楽しい近況報告が掲載されている同窓会会報ですが、今年度は年度末の3月発行を予定しております。

1月に、会報作成担当役員から各期の幹事様へ、会報に掲載する「各期のページ」の原稿依頼をお送りいたしました。

昨年度より、大学公式ウェブサイト内の卒業生向けページにPDFファイルの形で掲載していただくことになりました。これにより、皆さんからいただいた原稿をカラーにて掲載することが可能になっています。

皆さんのご活躍の様子、そして楽しい写真など、奮ってご投稿ください。また、これをきっかけに、久しぶりの同窓会など企画されてはいかがでしょうか。

6月総会のお知らせ

これまで、卒業生交流セミナーと同日に開催しておりました同窓会総会ですが、2018年度より6月に開催することになりました。

新卒者が職場に配属され、少し引継ぎを兼ね、開催いたします。

総会の日時が決まりましたら、大学ウェブサイトおよび会報内にてご案内を差し上げます。役員でなくて

も、会員の方一人ひとりに参加資格がございますので、是非ご参加いただけますようお願い申し上げます。

役員会審議事項報告

日程 2017年5月20日(土)

会場 茨城県立医療大学 集会室1

1. 総会の開催時期及び会報の発行時期について

これまで、会報作成は卒業生セミナーや総会の開催時期に合わせて10月頃に発送しておりましたが、卒業生交流セミナーの時期が年度によって異なることがあるので、総会を卒業生交流セミナーに合わせて開催するのはあまり望ましくないのでないか、という意見が挙がりました。

そこで、平成30年度からは6月初旬に総会兼役員引継ぎを行っていくことで検討しています。それに関連して、これまでは総会の開催案内を掲載するために9月頃に発行しておりました会報「藝遊」を、今年度より3月初旬の発行とし、そこに会計報告、次回の総会・引き継ぎ等のお知らせを掲載することとなりました。毎年、総会への出席者数が非常に少ない状況が続いておりますので、是非皆様のご参加をお待ちしております。

2. 新事業案の提案

(1) 在学生支援事業

在学中から同窓会を身近に感じていただける事業を展開していきたい

という思いから、毎年一定数の購入が必要な各学科の国家試験対策関連書式について、同窓会から寄贈してはどうか、という案が出ています。次回の総会にて審議したいと考えております。

(2) 卒業生支援事業

卒業生にとってのもっとアクセスしやすい同窓会にするため、現在、スマートフォンで利用できる「藝遊会アプリ」の開発を検討しています。卒業時にアプリをダウンロードしていただき、そのアカウントとパスワードを発行することで、セキュリティ面にも配慮した情報ツールとなり得ると考えています。これが実現いたしますと、同窓会からのお知らせがリアルタイムに届くほか、会員情報の変更手続きや会報の閲覧がスマートフォンで可能になるのではないかと考えております。こちらの案につきましても、次回の総会にて審議したいと考えております。

同窓会「藝遊会」へのお問い合わせ、ご意見などございましたら、お気軽にお寄せください。

連絡先

会長 橘 香織(理学療法学科1期生)
生・茨城県立医療大学理学療法学科准教授)

✉ tachibana@ipu.ac.jp



■平成29年度同窓会セミナー報告（担当：看護学科）

今年度の同窓会セミナーは、平成29年9月19日（火）大学の海外招聘講演と共同で開催しました。講師として、米国Arkansas医科大学教授であるAmy L.Hoster先生をお招きし、「アメリカにおける転倒予防対策」というテーマでご講演いただきました。当日は、県内の医療機関に勤務する医療者、また住民の方など多くの参加をいただきました。ご講演では、Amy先生が開発された転倒リスク評価のためのツールの概要、転倒予防策の具体について伺いました。随時、フロアからの質問に答えながらのご講演であり、米国での現状や予防策の効果、子どもへの応用など、多くの質問があり、活発な議論がなされました。

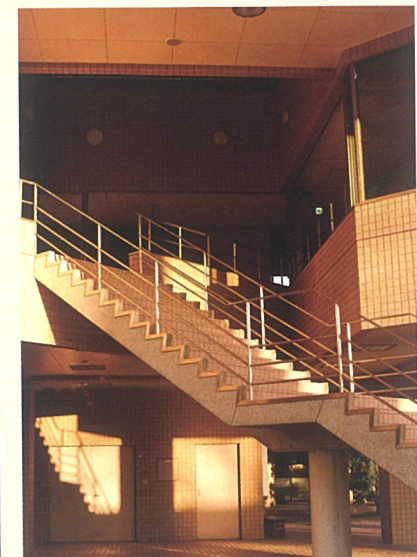
報告：看護学科准教授 沼口知恵子（看護学科一期生）

■茨城県立医療大学SD・FD活動の取り組み ～平成29年度～ SD・FD専門部会長 市村久美子

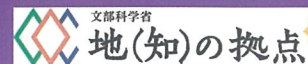
本学では、教員と職員とが協働し、教育・研究・臨床のさらなる質向上に向けて、その能力開発にも力を入れて取り組んでいます。平成29年度は、次のようなプログラムを実施しました。

- 新任教職員ガイダンス（4月4日）
- 公立大学協会主催「大学改革支援研究会」及び「公立大学に関する基礎研修」への参加（5月12日）
- FDネットワーク“つばさ”協議会への参加（5月27日）
- 第34回IPUミーティング「当事者からみた保健医療の実態と課題」（6月15日）
- 第35回IPUミーティング「公立大学の現状と課題—時代をLEADする公立大学—」（8月10日）
- 第36回IPUミーティング「公的研究費コンプライアンス研修会」（9月27日）
- 学長と大学院生との懇談会（9月27日）
- 第30回全学FD研修会「本学における入試改革の状況」「高大接続システム改革～入学者選抜の改革に対する考え方～公立大学における対応」（10月23日）
- 学長と学生による教育に関する懇談会（11月24日）
- 第37回IPUミーティング「学生のキャリアパス」（2月16日）

※「SD」とは、本学、本学付属病院及び本学大学院の教職員に本学等の運営に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力・資質を向上させるための研修及び必要な取組（スタッフ・ディベロップメント）をいう。また、「FD」とは、本学等が実施する教育授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）をいう。



茨城県立医療大学は茨城大学COC+の参加校です



文部科学省の補助事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に、茨城大学を代表校とする4大学1高専（茨城大学、茨城キリスト教大学、常磐大学、茨城工業高等専門学校、本学）が協働で申請した「茨城と向き合い茨城に根ざし、未来を育む地域協創人材養成事業」が採択され、平成27年度から始動しました。

茨城と向き合い茨城に根ざし、未来を育む地域協創人材養成事業

卒業生の茨城県内の就職と地元定着率の向上を目標に掲げ、4大学1高専が地域志向科目「茨城学」を共有するとともに、地域理解力、地域の課題発見・解決能力、実践に即したプロジェクト企画能力を備えた地域協創人材を養成します。さらには、地域の安全・安心な生活環境の向上や地域の活性化を図る取組を行います。

《地域協創人材教育プログラム始動》

4大学1高専が共有する地域志向科目「茨城学」が今年度から開講しました。地域協創人材教育プログラムは、「茨城学」をはじめ、大学が指定する「地域志向科目」及び「就業支援科目」、「臨床実習」で構成されています。地域協創人材教育プログラムで指定する科目を履修した方に、認定証を交付します。

茨城県内で働く方を応援しています

茨城県立医療大学キャリア支援センターでは、卒業後の就職支援も行っています。

大学には、茨城県内の医療機関から求人票が数多く届いています。卒業後にキャリア支援センターを利用し、茨城県内に就職する卒業生も増えてきています。卒業生が元気な顔を見せ、相談にきてくれることを大変嬉しく思っています。茨城県内への転職を考えている方は、是非1度キャリア支援センターにご相談ください。

茨城県立医療大学キャリア支援センター相談員 Tel. 029-840-2109

連絡先等調査について

卒業生との交流会等の企画・開催、大学情報を発信するため、勤務先や住所に変更があった時は、必ず電話又は書面もしくは本学ホームページに掲載している「卒業生連絡先等調査」入力フォーム (<http://www.ipu.ac.jp/article/14214743.html>) により、お知らせください。

茨城県立医療大学 I.P.U通信 vol. 5

発行月：平成30年2月

発行：茨城県立医療大学

問合せ先：茨城県立医療大学教務課

〒300-0394 茨城県阿見町阿見4669番地の2

Tel. 029-888-2108

Fax. 029-840-2301

<http://www.ipu.ac.jp>

